

## 不登校児童生徒への支援の在り方について

令和5年（2023年）2月21日（火）、Web会議システムを活用し、第2回渡島管内地域いじめ問題等対策連絡協議会を開催しました。

本協議会では、「不登校児童生徒への支援の在り方について」を協議題に、学校、教育委員会、関係機関等における取組の概要及び成果と課題等について、各会員から御意見をいただきました。

また、報告場面において、今年度の「どさんこ☆子ども地区会議」の取組について、八雲高等学校の生徒会の皆さんに報告をいただきました。

### 会員から（協議題 「不登校児童生徒への支援の在り方について」）

#### 【教育機関等】

##### ◆ 函館市小学校長会（函館市立北昭和小学校長）

井田 隆幸 会員

全ての子どもたちが笑顔で過ごせる学校、学級づくりに向けて、函館市の全ての小学校で共通理解を図り、子ども一人一人に寄り添う指導を実施した。また、不登校児童への初期段階の支援を充実させ、アセスメントに基づいた組織的な対応を行うとともに、南北海道教育センター等の関係機関と連携し、不登校児童への支援の充実に向けた取組を進めた。



##### ◆ 渡島小中学校長会（森町立森中学校長）

石川 宏司 会員

1人1台端末を活用し、授業をオンライン配信するなど、不登校児童生徒の学習機会の保障に向けて校内体制を整備している一方で、不登校児童生徒数に対する実施割合は低い状況にある。そのため、学校と家庭との連携を大切に、実施への理解を促している。また、不登校の未然防止に向けて、各種調査から不登校の要因について分析し、多様な児童生徒に応じた支援体制を整えるよう努めている。



##### ◆ 北海道特別支援学校長会道南支部（北海道北斗高等支援学校長）

吉野 隆宏 会員

不登校を議題の中心とした生徒指導研究協議会を本年度2回開催し、各学校における不登校の状況や対応に向けた取組等の情報交換を実施した。発達障がいのある生徒それぞれの特性を踏まえ、個別最適な学びの場を提供するとともに、学校生活を通じて、人と関わることの重要性を生徒が感じることができるよう取組を進めている。



##### ◆ 函館地区私立高等学校長会（函館大学付属有斗高等学校長）

山田 伸二 会員

中学校で不登校傾向であった生徒が高等学校において不登校となるケースが見受けられるため、中学校と連携を図り、適切な支援につなげることができるよう努めている。また、ICTを活用した学習機会の保障を行い、その学習状況から単位認定へつなげるなど、生徒一人一人に寄り添った対応を進めている。



#### 各学校における取組

- ICTやオンラインを活用した学習支援を行い、児童生徒の学習機会の保障につなげていること
- 児童生徒へのアセスメントを行い、校内で支援の方向性や、具体的な対応策について検討し、組織的に対応に当たっていること
- 児童生徒にとって学校がより一層安全・安心な居場所となるための「魅力ある学校づくり」と「分かりやすい授業の工夫」等の発達支持的生徒指導の充実が求められること

#### 【関係機関等】

##### ◆ 渡島管内地域子ども会育成連絡協議会長

小出 政彦 会員

子ども会は、異年齢集団で活動することを通して、友だちづくりを促すことや、主体的に行動する力を養うことを目指している。学校集団ではない集団との関わりの中で、子ども同士が互いにコミュニケーションを図りながら活動を行うことができるよう大人が適切に関わり活動を進めている。また、活動における子どもたちの様子を観察し、子どもたちの変化を見逃さないように努めている。



##### ◆ 北海道函館児童相談所地域支援課長

北原 淳 会員

児童相談所では、保護者から相談等を受け、面接による指導や心理検査を実施し、専門的な視点で当該児童生徒及びその保護者へ働きかけを行っている。把握した子どもの特性を保護者と共有し、家庭において特性に応じた働きかけを行ったことで、児童生徒の心理的安定が図られ、登校復帰に結び付いた事例があったため、今後も、当該児童生徒及びその保護者の要請に応じて取組を進める。



## 【関係機関等】

- ◆ **北海道警察函館方面本部生活安全課生活安全・少年係長 森野 雄一 会員**  
北海道警察では、子どもの居場所づくりの事業において、農業体験や調理実習等の活動を7回実施しており、不登校生徒も参加している。また、非行などの問題を抱える少年の立ち直り支援を強化するため、函館方面本部と函館少年鑑別支所で協定を結び、必要に応じて心理技官が面接や心理検査を実施する体制を整えている。
- ◆ **函館地方法務局人権擁護課長 中尾 秀和 会員**  
函館地方法務局人権擁護課では、児童生徒が必要なSOSを出すことができるよう管内の各学校にSOSミニレターを配付し、相談を受け付けている。今後は、道教委と連携した「ほっかいどうこどもライン相談」など、SNSを活用した相談事業を充実する必要があると考える。
- ◆ **フリースクール等（函館圏フリースクールすまいる代表） 庄司 証 会員**  
函館圏フリースクールすまいるでは、子どもの居場所づくりに重点を置き、不登校児童生徒に寄り添った支援を実施している。子どもたちの様子から、心の休息や安心・安全を促す支援が必要であると考え、サード・プレイスとしての役割を果たせるよう体制を整えている。また、保護者が支援を必要としている事例も多いため、関係機関と連携し、支援に当たっている。
- ◆ **函館市教育委員会学校教育部教育指導課指導主事 名古屋 貞治 会員**  
函館市教育委員会では、不登校対応に関するモデル事業において、市内の中学校4校に、校内サポートルームを設置し、生徒への支援を行っている。指定校の取組を参考に、指定校以外の学校も校内サポートルームを設置するなど、成果が波及している。また、全ての小・中学校及び義務教育学校において、不登校支援の取組をまとめた資料を作成し、資料に基づいた支援を実施している。



## 関係機関等における取組

- 多様化する不登校に対し、関係機関において、不登校児童生徒への学習支援やカウンセリング、保護者への面談等を実施するとともに、不登校の児童生徒の居場所づくりに向けて、環境を整備していること
- 児童生徒のSOSをキャッチするために、関係機関が連携した、多角的・多面的な児童生徒理解を可能とする教育相談体制の充実が求められること

## 協議のまとめ

### 渡島管内教育委員会教育長会（松前町教育委員会教育長） 宮島 武司 会員

学校、関係機関等における取組事例から、相互連携の重要性を確認することができた。不登校児童生徒に寄り添った支援はもちろんであるが、不登校児童生徒の将来等について不安を抱えている保護者も多いことから、保護者との信頼関係を築き、連携を強めることで、間接的に不登校児童生徒への支援につなげる取組も必要であると考え。また、今後は、多様化する不登校への対応について、教職員の研修を進める必要があると考える。



## 今年度の「どさんこ☆子ども地区会議」の取組について



本会議は、児童生徒がいじめの防止に向けた協議等を通して、いじめに対する意識を醸成するために開催しています。今年度は、管内の高校生20名でプロジェクトチームを編成し、月1回程度いじめの未然防止に向けた取組について話し合いを重ね、「いじめ根絶メッセージ動画」を作成しました。

### 【動画視聴後の会員からの感想】

#### ◆ 北海道高等学校長協会道南支部（北海道函館中部高等学校長） 佐竹 卓 会員

渡島管内の子どもたちのために、高校生が中心になり、話し合いを重ね完成させた、素晴らしい動画であった。本校において、生徒総会やPTAの会議等で放映し、取組を発信したいと考える。

#### ◆ 渡島管内社会教育委員連絡協議会長 池田 孝道 会員

「言葉と言葉のキャッチボールが大切」というメッセージが印象に残っている。安心して言葉にできる環境を整えることが大切だと感じた。

